

観光客で賑わう京都。東本願寺から歩いてすぐ、五条駅を出てすぐのところにドラッグストアリブは店舗 を構えます。1972年にペーパーディスプレイシステムを初めて開発した株式会社タナックスのコンシューマー 事業として誕生したドラッグストアリブは、ドラッグストアとしてだけでなく、ディスプレイの効果測定、テスト 販売などプロモーション事業を支える役割も果たしています。

ドラッグストアリブでは、2019年8月 にテラーメイトのT-iX1000現金 カウンターを導入しました。導入 のきっかけや使用感をドラッグ ストアリブにてお伺いしました。



左から米澤店長、前崎さん、三浦さん

導入の経緯

ドラッグ事業部リーダー 三浦さん:2017年 から2018年にかけてレジの誤差が出る 時期があったため、対策を検討していました。 自動釣銭機も検討したのですが、値段的に 難しかったので、当時はトレーニングや マニュアルの再考などを行うことで対策と

しました。ただ、レジ周り作業に関しては、簡単にレジ周り作業の効率化ができるので、 効率化が必要だと考えていました。

2019年5月に大阪での展示会でテラーメイト のT-i×1000現金カウンターのことを初めて 知り、これがあれば違算対策にもなると 思い、テスト使用をしてみることにしました。 その結果、スタッフの評判も良く、作業の 効率化も実現できたので、導入することに しました。

店舗での使用頻度

店長 米澤さん: 点検は1日に3回~4回 行っています。キャッシュレス払いは増え てはいますが、半分以上が現金での 支払いですので、まだまだ点検は必要です。 レジは2台あるのですが、今までレジ1台 当たり5~10分かけて点検を行っていまし た。テラーメイトを使用し始めてからは、 半分以下の時間で点検ができています。 かなり点検作業が楽になりました。

導入効果

杉山さん:正確に計数できるので、とても 助かっています。使い方はとてもシンプル なので、社員からアルバイトまで使えます。 レジ点検を行う杉山さん

店舗での使用には最適だと思います。

三浦さん:レジの打ち間違いなど、すぐに レジの再点検を行いたくても、手数えだと やはり心的なハードルが高かったのですが、 テラーメイトを導入してからは、思い立った時 にすぐにパパッと短時間で点検ができる ので、違算発生防止に繋がっています。点検 作業もだいぶ楽になったので、導入して よかったです。





キャッシュレス化の進む今、低コストでレジ周り作業を効率化!





紙幣も硬貨も カウント



スピーディー にカウント



紙幣1枚でも 正確にカウント



計量&持ち運び 可能で頑丈!

テラーメイト現金カウンターで レジ締め作業をストレスフリーに!

T-i ^x 1000	T-i ^X 1000 現金カウンターに特化したスタンダード機種 主にコンビニ、飲食、専門店向け	荷重容量	最大荷重2kg
T-i ^x 2000	紙幣・硬貨・棒金のカウントが1台で可能なモデル	外寸	奥行291mm 幅152mm 高さ166mm (現金プラットフォーム含む)
	ブリンターへの接続が可能な上位モデル ドラッグストア、雑貨・アパレル店など幅広い業態の店舗向け 金券登録、つり銭準備金の設定が可能	本体重量	0.98kg



